



発行所 日本看護連盟  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2  
Tel 03-3407-3606 Fax 03-3407-3627  
発行人 大島敏子

# No.423

2022年3月9日号

## たかがい恵美子衆議院議員が 厚生労働委員会で質問

3月2日、衆議院厚生労働委員会で、たかがい恵美子衆議院議員が質問に立ちました。その概要をご紹介します。

### ◎新型コロナ・ワクチン接種の状況と対新型コロナ戦略について

たかがい議員は、新型コロナ・ワクチン接種者と陽性者の年齢層別発生者数について、まず質問しました。そして、ワクチンの接種者と未接種者では陽性者の発生数が3倍から25倍近くあり、すべての年齢層でワクチン未接種者の感染リスクが高いこと、ワクチンによる一定の重症化防止効果が保たれていたことを共有したいと述べました。

また、新型コロナ・ウイルス感染症は、これまでの周期から見ると、次の流行が5月、9月にも起こりうると想定して備える必要があると指摘し、ワクチンの追加接種の進捗について質問しました。

ここまでワクチンの接種が進捗したのは、自治体や医療機関の現場の並々ならぬ努力と、国民の協力があってのことと謝意を述べました。

秋以降は、流行状況をモニタリングしながら、予防接種の対象を重症化・ハイリスクに重点化していくなど、戦略の見直しを進めるよう提案しました。さらに、感染者の長期の後追い調査も求めました。

### ◎ICD-11 適用への進捗状況について

WHOは30年ぶりにICD（国際疾病分類）を改定し、今年の1月に発効されました（ICD-11）。これにより、疾病分類や呼称が大きく変わったものもあります。たかがい議員は、日本のICD-11適用への進捗状況を質問し、30年ぶりの改訂の効用・可能性への期待が大きいため、たいへんな作業とは理解しているが、早期に適用できるようにしてほしい、と要望しました。

### ◎性同一性障害者特例法の現況と ICD-11 における位置付け

性同一性障害者特例法（性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律）が成立してから 20 年近くが経ち、これまでに 1 万件を超える戸籍上の性別変更が認容されてきました。たかがい議員は、現行の保険診療上の課題と ICD-11 発効に伴う取扱いの変更等について質問しました。

### ◎働き盛りの女性の健康支援について

就業女性全体のなかで 40～50 歳代が占める割合は非常に大きいのですが、卵巣機能の変化に伴う多様な体調不良（いわゆる更年期障害）が生じる年代でもあります。わが国では、この働き盛りの女性の就業継続支援に、どのような取り組みをしているのか、質問しました。

### ◎健康寿命の男女間格差について

日本人男女の健康寿命と平均寿命の差は女性の方が長く、この差は 10 年前と変わっていません。この差を縮める取り組みや、より細かい健診データを用いてカスタマイズされたデータヘルスなどを活用し、令和的な未病対策を推し進めてはどうかと質問しました。

### ◎社会保障人材の給与引き上げと地域におけるパンデミック対応への支援について

岸田政権では、社会保障人材の給与引き上げの取り組みが進められています。後藤厚労大臣も賃上げしやすい環境整備を表明されました。たかがい議員は、賃上げの規模感と見通しについて質問しました。また、コロナ禍を経験して、治療連携をはじめ、地域内あるいはパンデミックの深刻度に応じた地域を越えた人的・物的支援の体制づくりについても質問しました。

給与の引き上げについて、担当者から、令和 3 年度補正予算では、介護、障がい（福祉）、保育、看護等の職員に対して、総額 8 か月分で約 2600 億円が確保され、対象者は常勤換算で 344 万人と回答がありました。また、昨年末にまとめられた公的価格評価検討委員会の中間整理の中で、処遇改善の最終的な目標は、職種ごとに仕事の内容に比して適正な水準まで賃金を引き上げ、必要な人材を確保すると示され、これに向けて取り組みを進めていくと回答がありました。

また、パンデミックへの地域対応については、本年 6 月に予定される抜本的強化策の取りまとめのなかで検討すると答えがありました。

※この質疑の様子は、Youtube のたかがいチャンネル、衆議院インターネット審議中継でご覧いただけます。